

訪問看護・リハビリ介入による介護度変化

樺島 広貴¹⁾ 岩下 修¹⁾ 廣畑 淑郎¹⁾

1) 株式会社 アール・ケア 訪問看護ステーション ママック

Key words: 要介護 介護保険 在宅

【目的】

訪問看護ステーションからのリハビリテーション及び看護サービス利用により、介護度がどのように変化するか調査を実施した。

【対象】

岡山県玉野市在住の方(介護保険証の住所が玉野市)で介護保険にてサービスを利用され、H26年12月～H29年11月までの間に介護保険更新(変更申請も含む)が対象。

【調査方法】

介護度の変化がないケースを「維持」、介護度が下がったケースを「軽度化」、介護度が上がったケースを「重度化」とする。また調査期間中にサービスを開始したケースも含める。また上記を年代別、介護度別でも調査する。

【更新前情報】

介護保険更新者 249名(同一人物の重複あり) 男性 111名 女性 138名、男女比率 1:1.24
年代別割合 50代以下 5.2% 60代 18.1% 70代 31.7% 80代 34.9% 90代以上 10.0%
介護度別割合 要支援 1: 2.8% 要支援 2: 17.3% 要介護 1: 32.1% 要介護 2: 18.9%
要介護 3: 12.0% 要介護 4: 9.2% 要介護 5: 7.6%

【結果】

更新結果は維持 137名 55.0%、軽度化 37名 14.9%、重度化 75名 30.1%であった。

【年代別調査】

軽度化は 70代が最多 20.2%、80代が最少 10.3%
維持は 50代以下が最多 69.2%、70代が最少 49.3%
重度化は 80代が最多 37.9%、50代以下が最少 15.3%

【介護度別調査】※介護保険更新前の介護度を記載

軽度化は要介護 3: 23.3%が最多。次いで要介護 2: 20.4%。
維持は要支援 2: 65.1%が最多(変化が限定される要支援 1及び要介護 5は除く)。
重度化は要介護 4: 43.4%が最多。次いで要介護 2: 40.8%。

【考察】

各年の介護保険更新者の人数や男女比に大きな差はない。年代別では、50代以下、60代は維持傾向、70代は軽度化も見込めるが重度化もしやすく、80代、90代以上は重度化しやすい傾向にある。また、介護度別の変化では要介護 3で軽度化、要介護 4で重度化の割合が高い。これらの結果から、要介護 3、4かつ70代以上の方への適切な介入が介護度変化に大きな影響を与えることが推察される。厚生労働省老人保健課が示している区分別の状態像によると、日常生活活動動作の項目において、要介護 3以上では寝返り、排尿、排泄、口腔清潔、上下更衣動作が80%以上の割合で低下と報告されている。特に排泄、排尿は、その他の項目と異なり時間がよめないため、時間的拘束により介護負担感が高まりやすく、また衛生面から双方の精神的苦痛を伴いやすい。これにより、在宅生活の継続にも支障をきたす可能性があるため、介護度の変化だけではなく、在宅生活の継続という観点からも今後は排泄に対して重点的にアプローチし、その効果を調査したい。

【倫理的配慮】

本調査によって得られた情報は性別、介護度、年代に留め個人が特定されないように十分に配慮しており、対象者には考え得る不利益は存在しないと考える。また当所属施設での発表により承認を得ている調査報告である。